

第13期第12回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和6年(2024年)1月24日(水)午前10時～正午
場 所 国立市役所3階 第2会議室
出席者 山谷会長、山崎副会長、楠田副会長、内海委員、北委員、北村委員、田中委員、長嶋委員、山岸委員(委員は50音順)
事務局 清水ごみ減量課長、吉村清掃係長、菊次清掃係主任
傍聴者 1名

【議事要旨】

1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価の答申書(案)について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価の答申書(案)について事務局から説明した。

【山谷会長】1. 評価に当たってについてご意見をお願いします。

2 ページの本文上から7行目の総資源化率について確認です。昨年、国立市は平均を「上回り」、「高い方から」何位という記載でしたが、ここを変えた理由は为什么呢。

【事務局】昨様が、平均を「上回り」、「高い方から」何位という記載でした。今回は、平均が「下回り」になったため、そちらに合わせて、順位も「低い方から」という記載に変えさせていただきました。

【山谷会長】その上にある排出原単位については、少ないほうが良いので、少ないほうから何番目という記載になります。しかし、資源化率については、高い方が評価になるので、昨年と同じにさせていただいた方が分かりやすいと思います。

【事務局】修正いたします。

【内海委員】確認です。1 ページ目の事業系ごみについて言及されているところは赤線が引かれていないですが、こちらは去年と変化がなかったということでしょうか。具体的には、1 ページ目の下から2行目、734.5グラムと77.9グラム、また9.6%の記載になります。

【事務局】こちらは、これまでのごみ処理の現状を説明している部分になりまして、1 ページ目の下から2番目の部分の734.5グラムという数字は、令和2年度の数値になっております。事業系ごみ処理手数料を令和2年度に見直しをしたときに、この5年間でこれぐらい減りましたよということを記載しているところになります。今回の答申書(案)に関しては、令和4年度の実績を反映したわけではないので、記載に変更がない形になります。

【内海委員】3 ページの家庭系ごみ・生ごみの削減の部分で、「工夫して取り組む必要がある」という記載になっていますが、実際には取り組んできているので、もう少しその点は踏み込んで書いても良いのではないかと思います。

【事務局】生ごみについては、令和5年度もしっかり対応させていただいて、総括の中ではほぼ全員から継続してやりたいという回答をいただいております、その意義は大変大きかったと思っております。そ

のような観点も踏まえて、記載内容を調整していきたいと思います。

【山谷会長】内海委員がご指摘いただいた部分は、家庭系、事業系、集団回収まで含んだトータルの数値の記載になり、一つ一つの 카테고리について数値を示すとすると、今までよりも大分複雑になってしまいます。こちらは総括の文章なので、かなり大まかな傾向というものを示すのみにせざるを得ない形になります。個々のカテゴリについては、それぞれの評価書の中で示されており、そちらをご覧くださいということになります。

【山谷会長】Ⅱ．国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく行政による進捗状況の評価及び審議の概要(2022(令和4)年度分)評価、(1)家庭系ごみの減量化・資源化についてご意見をお願いします。

私から気がついたところを申し上げたいと思います。6ページをお開きください。ここはマイバッグ、マイボトル等の利用促進ということで、大きくは発生抑制、リデュースについて取り上げております。ですが、審議会の評価等、一番下の欄の2行がリユースについての評価になっています。ですので、この2行はリユースの評価の欄に記入すべき文章じゃないかなと思いました。こういう意見が出たのでしょうか。

【事務局】このパートの中の流れでご意見が出ました。

【山谷会長】この中で発言された方がおられたのですね。そうしましたら、12ページのリユースの項目である「②フリーマーケット等の支援」審議会の評価等の1番最後の2行に入れることといたします。

【山谷会長】(2)事業系ごみの減量化・資源化についてご意見をお願いします。

【事務局】22ページ、③減量化・資源化の促進の2022(令和4)年度実績の表の上下を反対にしたと説明しましたが、修正されていませんでしたので、修正いたします。

【山谷会長】(3)収集・運搬についてご意見をお願いします。

【山岸委員】29ページの⑥新型コロナウイルス等の感染症への対策について、審議会の評価では「新型コロナウイルスの感染症流行が、なかなか収束の状況にはならず、長期化しそうであることを踏まえ」とありますが、実績のところでは「収束してきた」ということが書いてあり、少し差があるので、揃えたほうが良いと思いました。

【山谷会長】新型コロナウイルスの感染症流行について、まず1点は、今年度についてではなくて、昨年度についてのことであるということです。もう1つがパンデミックのような状況というのは、収まりつつありますが、完全に終息したわけではないということです。電車では自主的にマスクをしていますし、大学でもできればマスクを着用するように言われていて、大人数の講義はオンラインが主流にもなっています。また国立市役所職員もマスクをされている方が多いかと思えます。今後、新しい種類のウイルスが出てくる可能性もございますので、完全終息したわけではないということは確かなので、長期化しそうであるという表現は特に問題はないかなと思えます。

【事務局】終息と言うと、何を以て終息かというのが、行政の中でもなかなか難しいところございますので、内容を少し検討いたします。

【事務局】今の話を受けて、1つ目が3ページ目の前文の部分になりますが、(4)全体評価と意見と書いた3ページ目の上から7行目になります。ここに「新型コロナウイルスの終息が見えないこと

から」というところ、記載を変えずにそのままにしていたのですが、統一した表現に変えさせていただこうと思っております。

【山谷会長】（４）中間処理についてご意見を申し上げます。

私から気がついたところを申し上げたいと思います。31ページをお開きください。審議会の評価等、一番下の欄の1行が「その他、IT部分の強化もしてほしい」という記載になっております。このIT部分というのが何を指しているのか説明いただきたいです。

【事務局】その当時の議事録を確認いたしました。ごみカレンダーの裏に索引がありますが、その部分を毎回カレンダーから探すのが面倒なので、インターネットで確認して調べられたらいいなということが話の流れの中であり、追加で評価に入れようということになりました。

【山岸委員】私が発言しました。IT部分の強化について、発言した内容も全然分からなかったのもう少しシンプルに分かりやすくできると良いです。

【事務局】委員さんのご指摘も踏まえるところもございしますが、ごみ自体が日進月歩でいろいろなものが出てきますので、その対応というのは非常に大変なところはございます。ごみカレンダーには本当に必要最低限のところを入れていまして、現在、ホームページの検索メニューからも相当数を増やして検索できるようにしています。今後さらにもっと量を増やして、市民の皆様が検索しやすいようなことを今考えております。記載については、もう少し分かりやすいような表現にしたいと思います。

【山谷会長】（５）最終処分についてご意見を申し上げます。

【山岸委員】35ページの①焼却残灰排出量の削減について、審議会の評価でエコセメントの利用促進をさらに努めてほしいとありますが、なかなかエコセメント利用の促進は限られてくると思います。それだけじゃなくて、エコセメントが実際に使われていますというアピールの広報と、エコセメントの利用方法とその促進ができたなら良いなという話をしたと思うので、そこも可能であれば、やっていただきたいと思いました。エコセメントが使われているということを知っている方もいると思いますが、知らない方もいると思うので、それが分かるような、例えば、たまに市報で広報があってもすごく良いと思っています。

【山谷会長】それでは、地方自治体として、国立市として、エコセメント利用の促進にさらに努めるとともに、エコセメント利用の実態、状況についても広報を充実させてほしいという感じでいかがでしょうか。

（６）制度、施策の充実等、Ⅲ．資料編については、修正の意見がなかった。

【山谷会長】それでは、所要の修正も加えて、完成版を作成して、市長に答申書としてお渡しするという形で参りたいと思います。

2 その他（１） 国立市エコショップ制度について

資料に基づき、国立市エコショップ制度について事務局から説明した。

【山谷会長】 国立市エコショップ制度についてご意見をお願いします。

【長嶋委員】 食品ロス削減についての欄の15番の意味がよく分かりません。食べ残しを減らす取組をしているというのはどういう意味か教えてください。

【事務局】 例えば、ドギーバックと言われる、飲食店等で食品が残ったら持ち帰るための容器を提供しているとか、そういったものも含まれます。

【山谷会長】 あとは、小盛りメニューを用意する。できれば、小盛りについてはちょっと値引きもしていただくと良いですね。

【長嶋委員】 今言われると、「あ、そうだったのか」と思いましたが、これだけの表現だと分かりづらいので、持ち帰り容器がありますよとか、最初から食べられないので減らしてくださいとか、そういう何かの言葉がつくと、分かりやすいかなと思いました。あともう一つ、25番の有料ゴミ処理袋の取扱いをしているというところに、粗大ゴミシールの取扱いをしているということをごくかに入れてもらうことはできないでしょうか。

【事務局】 ご意見もいただきまして、表現がどういう形が適切か、検討していきたいと思えます。

【山谷会長】 現状は、粗大ゴミのシールについては、コンビニには全て置いてある感じでしょうか。

【長嶋委員】 粗大ゴミのシールは全ての店舗に置いているわけでもありません。

【長嶋委員】 そうすると、粗大ゴミはめったに出すものではないですが、今はコンビニに行けば何でもあるという感覚があるにも関わらず、ゴミ処理カレンダーを見て探すと、取扱いをしているところはすごく少ないと感じます。地域によっては、取扱店が遠いので、自転車を漕いでいきますが、そこで例えば200円シールはあるけど、500円シールは、今は置いていないと言われることもあります。ゴミ袋を置いていただけなのであれば、合わせて粗大ゴミシールも置いていただけるとありがたいと思いました。粗大ゴミも燃やすのではなく、リサイクルされるものもあるので、少し考えていただければと思いました。

【事務局】 市としてもさまざまな形で有料ゴミ袋とか、粗大ゴミシールの販売の拡大をやっています。ですが、なかなか事業者さんの都合がある中で進まないところもあります。このエコショップを作った目的が、地域の中でのなるべく身近なところに置きたいというところがベースにありますので、より広報等をしっかりやっていきたいと思えます。

【山岸委員】 長嶋委員が前にゴミ処理袋の大きいもののばら売りが欲しいとおっしゃっていて、私も本当にそうだなと思いました。25番の国立市有料ゴミ処理袋の取扱いをしているにゴミ処理袋のばら売りをしているという認定項目があったらすごく良いなと思いました。

【山谷会長】 こういう枠組みを作ったのですから、ばら売りの推奨もあると良いですね。

【事務局】 そちらにつきましても、引き続き拡大に向けて検討いたします。

【山谷会長】 そうですね。行政のほうからばら売りをお願いしますというよりは、この制度の中でもインセンティブが適用されていて、という形としての工夫はあったほうが良いと思えます。

【楠田委員】 確認です。14番のところに、国立産の農林水産物を販売しているという項目があって、この前提は、国立産の農林水産物というのは全部処理されておらず、ロスになっているという実態があり、このことが推奨されているということでしょうか。食品ロスの削減推進計画の中にも地産食品の販売というのが実際の具体例として挙げていらっしゃるの、この認定項目として入れるのは合っていると思えます。ただ、素朴に食品ロスの削減というのと、地元の食品を販売するというのは、直接的にイメージとして湧かないです。地元で生産している農産物というのが、例えば8割はうまく処

理できていて、2割はどこかでロスしているというような実態があるのであれば、なるほどと思いますが、その実態についてはごみ減量課さんのほうでは確認されていますでしょうか。

【山谷会長】これは政策的に地元の事業、この場合は農業ですけれども、そちらを支援したいという意図があるのかなと思いました。

【事務局】国立市内には農産物の大規模事業者や、南部地域には農家さんが多いとか、いろいろな国立市の特性があります。課題認識として、農家さんが作ったもので、例えば売れないようなものとか、そういったものをどうしていこうかなという課題がありまして、将来的な視野も含めて、こういう項目を入れさせていただいているということになります。

【内海委員】非常にたくさん項目を入れていただいて、画期的なものになっているなと思います。たくさんのお店に導入してもらう必要があるのも、実現可能性というところから知りたいです。例えばスーパーではない小さなお肉屋さんが国立市には何軒かあると思いますが、そういうところを呼び込むために、どの部分で該当しそうかを考えたときに、うまくいくのかなという疑問が1つあります。あと、例えばファミレスとかレストランを認定するときには、食べ残しを減らす取組をしている項目は、2点にしかならないので、点数を増やすとか、レストラン関係の項目で何か新しい項目のアイデアなど、もう少し項目を工夫できないかなと思いました。そちらはいかがでしょうか。

【事務局】お肉屋さんみたいな飲食店がこの項目を満たせるかというところですが、まず今おっしゃっていた15番、食べ残しを減らす取組をしているという項目も1つです。地元の農産物を使っただけ、地元のお肉を販売していれば14番も該当します。他にも店頭で食べ残しを減らしましょうのようなポスター掲示を店舗内でしているとか、ホームページをつくって宣伝をすれば、16番も満たすことはできると思っています。ポイント自体は、4、6点というのはつけることができると思っています。

【内海委員】おそらくこれを見たときに、レストランの人が国立産の農産物を調理に使っている、販売しているという意識はないので、国立産の農林水産物を販売か、あるいは、それを使った料理を提供している、というようなことをどこかに入れないと分からないと思いましたが、いかがでしょうか。

【山谷会長】そうですね。そのあたりは、そのお店自身が地元産を使って地産地消で料理を作っています、ということをお知らせすることがまず第1ですよ。

【内海委員】地産地消というキーワードが出たので、それをどこかに盛り込めればすごく良いなと思いました。

【事務局】この新エコショップ制度につきましては、ありとあらゆる業種、業界団体さんがありますので、そこを全部網羅することは難しかったです。ですが、ご相談を受けた店舗につきましては、なるべく認定できるようにしたいという思いがありますので、ハードルはそんなに高くないかなと思っています。今ある項目で大体拾える項目はありますが、地域内での循環といったところの観点は、また書き方が難しいというようなところもありますので、廃棄物の担当部署としては、全体を通してエコショップの認定をできるような形はできていると思っています。地産地消という言葉まで入れるかどうかというのは、今のところはあまり考えていません。

【内海委員】お肉屋さんの件についてはいかがでしょうか。

【事務局】配点を踏まえて、「など」という言葉も結構入っていますので、その辺は現場へ行って、実際にご相談をしながら、確認していきたいと思っています。例えば自動車修理工場さんとかでも、ごみ袋を売れないのかな、という議論をしてきて、その中でも点数取れるような形では考えておりま

す。ですので、ご相談を受ければ、前向きに検討していきたいと思っています。

【内海委員】それでは、例えば、お肉屋さんをやつつ、ごみ袋の販売をするみたいな形で点数を稼いで認定というのはオーケーということになりますね。お店のほうに働きかければ、乗り気になってくださるお店もたくさん出るのではないかと思いますので、非常にありがたい取組だと思います。

【山谷会長】認定を市のほうでされるということで、その段階でお店といろいろなコミュニケーションを取り、アドバイスとかもできますので、お店とのコミュニケーションを密にしていくという過程で、いろいろな柔軟な対応ができるのではないかなと思います。

【事務局】今の会長のコミュニケーションを取っていくというお話で申し上げますと、年末にごみ協力店制度が廃止になりましたので、従来の認定店にも直接職員が訪れて、お話をしながら、理解いただきながら、新制度へ手挙げをしていただいております。

【山谷会長】この制度はお店の良い取組を促していこうということになりますが、この制度を回していくときに、PDCAサイクルでチェックを回していくという形が一番良いと思います。そのチェックのところはいかがでしょうか。

【事務局】現在は年度末にどういうものを店頭回収しているとかのアンケートを取らせていただいております。そういったスキームがございますので、新エコショップ制度につきましても、点数をアップしていただくなどのお願いができるような内容も考えて、アンケートをできればと思いました。

【山谷会長】アンケート調査によって実態を把握し、取組の状況を把握し、そして改善につなげていくということをおアフターフォローとしておやりになるということですね。

【山岸委員】エコショップ認定の看板についてですが、データとかもありますでしょうか。例えばホームページにロゴみたいな感じで入れてもいいデータなどがあれば教えてください。エコショップ認定しているお店が、例えばスーパーだったら飾るところがあると思いますが、個人事業主でホームページとかがあった場合に、そのホームページにこのエコショップのロゴマークが入れられたら良いなと思いました。そういう取組はないということでしょうか。

【事務局】現状は市からシールをお渡しするという形になっています。ホームページにロゴマークを載せてはいないので、現状ではありませんが、今後、ホームページとかにも載せられるように考えていきたいと思っています。また、これから発行いたします2月5日号の市報特集号の裏面の4ページ目に、今回、エコショップのお店を大々的に載せさせていただく予定でございます。

【北村委員】商店街の中でエコショップの話題が出るのがほとんどないです。でも、そういった場では、そっちも入ったら、こっちのエコショップも入ると良いよ、のような話題を言わなきゃいけないとすごく思いました。

【山谷会長】そうですね。そういうところまで持っていけると良いですね。それにはまず関心を持っていただく、認知度を高めていくというのが一番前提になりますね。そして、良い取組をされたお店を市のほうでホームページとかで紹介していただくというようなことですね。

3 次回以降の日程について

答 申 令和6年3月21日(木) 13:30-14:30 市長公室(2階)

— 了 —